

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月17日現在

機関番号：34304

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520292

研究課題名（和文） アメリカ文学と写真／ドキュメンタリーとのインタラクティブな関係に関する学際的研究

研究課題名（英文） An Interdisciplinary Study on the Interactive Relationship between American Literature and Photography/Documentary

研究代表者

中 良子（NAKA RYOKO）

京都産業大学・文化学部・教授

研究者番号：50237195

研究成果の概要（和文）：

本研究では、文学と写真／ドキュメンタリーの関係性について、1930年代のドキュメンタリー・ムーヴメントの下でのウィリアム・フォークナー、ユードラ・ウェルティ、アースキン・コールドウェル、ジョン・スタインベックの文学とポストモダンなメディア環境下にあるドン・デリーロを取り上げて考察した。時代のメディアの政治学との共振性の分析を通して、文学作品におけるドキュメンタリーの想像力の諸相を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research is intended as an investigation of the relationship between American literature and photography / documentary, mainly focusing on William Faulkner, Eudora Welty, Erskine Caldwell, and John Steinbeck in their involvement with the documentary movement of the 1930s and Don DeLillo in the postmodern media environment. Analyzing a deep resonance with the media politics in each time, this project has clarified some aspects of documentary imagination of these literary works.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：アメリカ文学・ドキュメンタリー・写真・メディア

## 1. 研究開始当初の背景

アメリカにおける文学・写真・ドキュメンタリーの関係性を体系的に捉えて論じた学際的研究は、ほとんど皆無であるといえる。アメリカ文化史において、写真を中心としたドキュメンタリーの意味を明らかにしようとした William Stott, *Documentary*

*Expression and Thirties America* (1973)や、「アメリカ」の創造に参加してきた写真の歴史をたどる Alan Trachtenberg, *Reading American Photographs: Images as History, Mathew Brady to Walker Evans* (1989) は有意義な先行研究であるが、そのような文脈に文学テキストを取り込みその相互作用を

解き明かした研究が十分に展開されているとはいえない。

文学と写真との関連性を論じたものは Carol Sholoss, *In Visible Light: Photography and the American Writer: 1840-1940* (1986) や Susan S. Williams, *Confounding Images: Photography and Portraiture in Antebellum American Fiction* (1997) などがあるが、どちらも議論の重点は、「Nathaniel Hawthorne とダゲレオタイプ」といった初期の写真の役割に重点がおかれている。現実と虚構の交錯するポストモダンな状況における文学と写真の関係はさらに考察される必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究は文学とドキュメンタリーとの関係、特に、従来十分に論じられてこなかった文学と写真の有機的な関係を明らかにし、文学研究の新たな局面に光を当てるものである。文学も写真・ドキュメンタリーも、文化を映し出す「テキスト」であるという点では密接な関係をもっているといえる。本研究では、形式・様式上からは異なるジャンルに属すると思われるこれらの「テキスト」の関係の諸相を探り、その関係がいかなる意味を持つのかを明らかにする。2つのメディアは相互補完的な関係を保ちつつ、アメリカ文化の形成に重要に関わってきたといえる。その過程において、アメリカの現実を捉えて記録することで歴史のイメージを提供する写真がいかに文学的修辞法を獲得していったか、そして写真的視点と技法によって表現されたアメリカのイメージがいかに物語を創作する作家の想像力を刺激し影響を与えたのか、さらにまたいかに写真と作家の文学的想像力が共振することで、アメリカという物語を創造していったのかを探る。

以上の観点を踏まえ、それぞれのメディアが創造した「アメリカという物語」を分析するのみならず、作家たちのアメリカを捉える想像力における、文学と写真・ドキュメンタリーのインタラクティブな関係をも明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究の方法

文学・写真・ドキュメンタリーのインタラクティブな関係について学際的にアプローチし、アメリカ的想像力の変遷をたどるといふ本研究を遂行にあたっては、この異なる3つのジャンルのテキストを時代ごとに並置し、時代の歴史的・社会的・文化的背景との関わりのなかで、それぞれのテキストの詳細な分析をとおしてテキスト間の相対的・有機的な関係性を考察していく方法をとる。具体的にはまず、①1839年に発明された写真技

術が、初期のアメリカ文化の創造に深く関わっていく19世紀半ばから20世紀初頭、②フォトジャーナリズム全盛期をむかえ写真が作家たちの想像力を刺激し、写真と文学テキストが並置される形式のドキュメンタリー・ブックが流行する1930年代を中心とする20世紀前半、③メディアが多様化しポストモダンな状況が展開される20世紀後半から現在、という3つの特徴的な時代区分ごとに、各時代の歴史・社会・文化事象を捉えた写真／ドキュメンタリー作品と、写真やドキュメンタリーに関わりを持った、あるいは、その修辞法や手法に影響を受け自らの創作に取り入れようとした作家の文学テキストをできるだけ網羅的に抽出し、ドキュメンタリーと作家との関係性を通時的に捉えることで、アメリカ的想像力の変遷を跡づける。次に、各時代の特に重要なテキストを抽出し、詳細なテキスト分析を行うと同時に、それらのテキストが生み出された時代の、テクノロジーの変化にも支えられた、歴史的な文化と政治のポリティクスを明らかにしていく。

## 4. 研究成果

アメリカ文学と写真／ドキュメンタリーのインタラクティブな関係性を探る本研究の統括的成果は次の2点である。(1) 日本アメリカ文学会関西第55回支部大会(2011年、武庫川女子大学)において、ドキュメンタリーの想像力と文学表象の相互関連性について考察することを目的としたフォーラム「Natural Disasterとアメリカの想像力」を、中が司会者としてコーディネートし、渡辺とともに講師を務めた。その成果を、研究協力者大井浩二氏(関西学院大学名誉教授)も加えて、編著『災害の物語学』(世界思想社、2013年刊行予定)として出版する。

(2) 花岡が共編者として企画し、渡辺が分担執筆している『アメリカン・ロード・クロス・メディアの文化学』(英宝社、2013年刊行予定)の出版。アメリカ神話を生み出してきた想像力の地場である「アメリカン・ロード」をめぐる様々なジャンルにおける表象を考察することで、アメリカを言説化するドキュメンタリーの想像力の解明を試みた。

研究方法に基づく主な研究成果の詳細は以下のとおりである。① 19世紀半ばから20世紀初頭、黎明期の写真とアメリカ文化の創造については、研究協力者の大井浩二氏による講演会「セントルイス万国博覧会の写真を読むー『驚くべき不夜城』の光と影」(平成22年1月23日関西学院大学)を開催した。フィリピン展示場の写真を「新しいフロンティア」の表象として分析された氏の講演を通して、歴史的な事象の記録としての写真をドキュメンタリー文書に表れた政治的言説の文脈に置くことで時代の思想を読み取るこ

の意義と可能性について検討した。

② 20 世紀後半：1930 年代のドキュメンタリー・ムーヴメントと文学については、中と花岡が担当した。

研究成果「ユードラ・ウェルティの明るい南部—現代南部小説としての『楽天主義者の娘』」、『フォークナー』(第 15 号、2013)において中は、ウェルティ文学の根幹をなす作家の視点が、30 年代に WPA の広報官時代に撮っていた写真を集めた写真集『ある時ある場所で』を貫く写真家としての視点を受け継ぐものであることを論じた。写真によって南部を捉えるウェルティの視座は、30 年代当時の FSA ドキュメンタリーに代表される「政治性」に異議を唱えるものであり、その視座は、彼女の文学作品において「南部」の記憶をアメリカ的記憶に接合するものであることを明らかにした。この論点は、「南部のアダム—Eudora Welty の *The Ponder Heart* におけるイノセンス」、『京都産業大学論集』(第 46 号、2013 年) および「ユードラ・ウェルティの『プランテーション』小説」、『同志社アメリカ研究』(第 46 号、2011 年)において展開されている。

研究成果「ダスト・ボウル難民のドキュメンタリー表象—『移住農民の母』と『怒りの葡萄』」、『災害の物語学』では、30 年代のドキュメンタリー・ムーヴメントの文脈で、時代のアイコンとなったドロシア・ラングの写真『移住農民の母』とジョン・スタインベックの『怒りの葡萄』との共振性を考察した。『怒りの葡萄』におけるドキュメンタリー的想像力を解明することで、『移動難民の母』への上書きの物語として読めることを明らかにした。

花岡は、研究成果「テキストと写真のポリティクス—アースキン・コールドウェルとマーガレット・バーク＝ホワイト」、『二〇世紀アメリカ文学のポリティクス』(貴志雅之編、世界思想社、2010 年)において、30 年代の経済的ならびに政治的な危機を背景に、現実を掴み取ろうとするドキュメンタリーがその存在を誇示した時代を代表するドキュメンタリー・ブック『あなたは彼らの顔を見た』を取り上げ、テキストと写真、現実とフィクション、南部男性作家と北部女性写真家との間にはたらくポリティクスを考察した。さらにこの問題を敷衍して、研究成果「アースキン・コールドウェル—ドキュメンタリーの桎梏」、『英米文学』(第 55 巻、2011)において、作家アースキン・コールドウェルがフィクションとドキュメンタリーの狭間で揺れ動いた苦悩の本質の解明を試みた。

研究成果「ユートピアの影—南部共同体のある現実」、『異相の時空間—アメリカ文学とユートピア』(大井浩二監修、英宝社、2011 年)において、ウィルスの伝染という観点か

ら、ウィリアム・フォークナーの小説に描かれた南部共同体の本質的な特質の解明を試みた。ドキュメンタリーで扱われことが一般的である病原性ウイルスによる発病のメカニズム、そして感染という物理的な事象が、文学作品で描かれる南部共同体における情報の伝播のメカニズムの解明に有効な視点を提供してくれる可能性を論じ、文学とドキュメンタリーの関係を探る上での新たな展望を示した。

研究成果『『タバコ・ロード』—アメリカン・ロードの光と影』、『アメリカン・ロード—クロス・メディアの文化学』では、アメリカン・ドリーム生成に深く関わると同時に、写真、映画、ドキュメンタリーを始めとするあらゆるメディアと興味深い共振を響かせてきたアメリカン・ロードをめぐる想像力に注目し、アースキン・コールドウェルの『タバコ・ロード』に描き込まれた南部のロードの光と影を考察した。

③ポストモダン文学における文学と映像メディアの関係性については、渡辺がドン・デリーロのフィクションに焦点を絞り、分析を行った。9. 11 で灰燼に帰した「タワー」から亡霊のごとく蘇った主人公キースと、リアンを描いた『フォーリングマン』(2007)は、表題が示すように、リチャード・ドルーが撮影した 9. 11 の衝撃的な写真、「ザ・フォーリングマン」やドキュメンタリー映画、『ザ・フォーリングマン』をはじめとする視覚メディアと密接な関係にある。研究成果「9. 11 と「灰」のエクリチュール—『フォーリングマン』における“not”の亡霊」、『メディアと文学が表象するアメリカ』(山下昇編、英宝社、2009 年)は、それらのメディアを視野に入れ、ポスト 9. 11 を生きる本作の登場人物たちの憑依性を帯びた反復的な振る舞いを分析するとともに、パフォーマンス・アーティスト、フォーリングマンがいかに関説的に死のアポリアを前景化し、“nots”の亡霊を解き放つか、亡霊の形象としての「シャツ」を手掛かりに考察を進めた。

研究成果「時の砂漠—惑星思考の『ポイント・オメガ』」、『異相の時空間—アメリカ文学とユートピア』(大井浩二監修、英宝社、2011 年)は、デリーロの新作『ポイント・オメガ』(2010)を取り上げ、イラク戦争回顧ドキュメンタリー映画製作の未完のプロジェクトが、いかに主人公の「深遠な時間」をめぐる哲学的ヴィジョンを紡ぎ出すか、『二四時間サイコ』を参照しつつ、写真と映画の臨界点を惑星思考との関係において考察した。ベトナム戦争や冷戦に深く関与したマクナマラ元国防長官のドキュメンタリー映画『フォッグ・オブ・ウォー』(アカデミー・ドキュメンタリー長編賞受賞作)に触発されたかのように、フィンレイは、イラク戦争に深く

関与した主人公エルスターのドキュメンタリー映画製作を思い立つが、このプロジェクトは結局のところ日の目を見ることはない。しかしながら、砂漠を背景に二人が交わす会話それ自体が、イラク侵攻作戦を通じて新たに生み出された主人公の哲学的ヴィジョンをドキュメンタリー風に紡ぎ出していることが明らかになった。

研究成果「シネマの旅路の果て—ドン・デリーロの「もの食わぬ人」における「時間イメージ」、『アメリカン・ロード・クロス・メディアの文化学』は、『ポイント・オメガ』(2010)のプロローグとエピローグで描かれた超スローモーション・ビデオのインスタレーションを手掛かりに、デリーロの短編「もの食わぬ人」(2011)をシネマ・ロード・ナラティブとして読み直し、シネマという「生きた静物画」に秘められた生成変化の開かれた時間相を明らかにした。

また、研究成果「噴火・蒐集・生成—『火山の恋人』における歴史の創造/想像」、『災害の物語学』においては、スーザン・ソntagの『火山の恋人』に着目し、主人公ウィリアム・ハミルトンが画家ピエトロ・ファブリスに描かせたヴェスヴィオ火山の精緻な色刷り図版付き豪華本『火の平原』を、当時最先端の彩色技術を駆使した火山観測ドキュメンタリーとして捉えることにより、両者のインタラクティブな間テキスト性を考察した。その結果、ハミルトンの細密な火山グラフィックスに魅せられたソntagが、カットアップされた火山表象や溶岩標本をテキストに周到に配置し、無尽の時空を内蔵する歴史のポイエーシスに新たな地平を賦与していることが判明した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ① 中 良子、南部のアダム—Eudora Welty の *The Ponder Heart* におけるイノセンス—、京都産業大学論集人文科学系列、査読有、第46号、2013、pp. 215-232
- ② 中 良子、ユードラ・ウェルティの明るい南部—現代南部小説としての『楽天主義者の娘』、フォークナー、査読無、第15号、2013、pp. 62-75
- ③ 花岡 秀、雨宿りの名残り—倉橋由美子とフォークナー、フォークナー、査読無、第14号、2012、pp. 94-102
- ④ 花岡 秀、アースキン・コールドウェル

—ドキュメンタリーの桎梏、英米文学、査読有、第55巻、2011、pp. 195-205

- ⑤ 中 良子、ユードラ・ウェルティの「プランテーション」小説、同志社アメリカ研究、査読有、第46号、2011、pp. 61-81

〔学会発表〕(計8件)

- ① 中 良子、ユードラ・ウェルティの「明るい南部」、日本ウィリアム・フォークナー協会第15回全国大会シンポジウム「フォークナーと現代文学」、2012年10月12日、中京大学
- ② 中 良子、Dust Bowl Refugeeのドキュメンタリー表象、日本アメリカ文学会関西支部第55回支部大会フォーラム「Natural Disasterとアメリカ的想像力」、2011年12月3日、武庫川女子大学
- ③ 渡辺 克昭、噴火・蒐集・生成—*The Volcano Lover*における歴史のポイエーシス、日本アメリカ文学会関西支部第55回支部大会フォーラム「Natural Disasterとアメリカ的想像力」、2011年12月3日、武庫川女子大学
- ④ 渡辺 克昭、時の砂漠—惑星思考の『ポイント・オメガ』、日本アメリカ文学会関西支部例会、2010年11月6日、京都女子大学
- ⑤ 花岡 秀、Erskine Caldwell—フィクションとドキュメンタリーの狭間で、日本アメリカ文学会関西支部例会、2010年9月11日、神戸女学院大学
- ⑥ 渡辺 克昭、『囚人のジレンマ』におけるバイオ・ポリティクス逆説、アメリカ学会全国大会シンポジウム、2010年6月6日、大阪大学
- ⑦ 花岡 秀、南部共同体における〈ウイルス〉の恐怖、第4回日本英文学会関西支部大会シンポジウム「〈伝・染〉と英米文学」、2009年12月20日、同志社大学
- ⑧ 渡辺 克昭、敗北の「鬼(イット)」を抱きしめて—冷戦のトラウマから自己免疫的症候としての9.11—、第4回日本英文学会関西支部大会シンポジウム「〈伝・染〉と英米文学」、2009年12月20日、同志社大学

〔図書〕（計6件）

- ① 花岡 秀、渡辺 克昭、アメリカン・ロード・クロス・メディアの文化学、英宝社、2013年刊行確定
- ② 中 良子、渡辺 克昭、災害の物語学、世界思想社、2013年刊行確定
- ③ 花岡 秀、渡辺 克昭、異相の時空間—アメリカ文学とユートピア、英宝社、2011、pp.106—121、pp. 310—333
- ④ 花岡 秀、渡辺 克昭、二〇世紀アメリカ文学のポリティクス、世界思想社、2010、pp. 86—116、pp. 215—247
- ⑤ 渡辺 克昭、アメリカ文学研究のニュー・フロンティア、南雲堂、2009、pp. 168—194
- ⑥ 渡辺 克昭、メディアと文学が表象するアメリカ、英宝社、2009、pp. 168—194

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中 良子 (NAKA RYOKO)  
京都産業大学・文化学部・教授  
研究者番号：50237195

### (2) 研究分担者

花岡 秀 (HANAOKA SHIGERU)  
関西学院大学・文学部・教授  
研究者番号：40172944  
渡辺 克昭 (WATANABE KATSUAKI)  
大阪大学・言語文化研究科・教授  
研究者番号：10182908